



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月11日

上場会社名 アドアーズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL http://www.adores.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 慶
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部部长 (氏名) 上原 聖司 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日 配当支払開始予定日 ——
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|---|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 26年3月期第2四半期 | 11,354 | — | 795 | — | 727 | — | 723 | — |
| 25年3月期第2四半期 | — | — | — | — | — | — | — | — |

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 724百万円 (-%) 25年3月期第2四半期 -1百万円 (-%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年3月期第2四半期 | 5.20 | — |
| 25年3月期第2四半期 | — | — |

(注) 平成25年3月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第2四半期の数値及び対前期比については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 26年3月期第2四半期 | 20,498 | 10,746 | 52.4 | 77.18 |
| 25年3月期 | 20,683 | 10,162 | 49.1 | 72.98 |

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 10,746百万円 25年3月期 10,162百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年3月期 | — | 0.00 | — | 1.00 | 1.00 |
| 26年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 26年3月期(予想) | — | — | — | 2.00 | 2.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 23,000 | 15.0 | 1,100 | 161.0 | 1,000 | 168.8 | 600 | 262.3 | 4.30 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 —— 社（社名） 、除外 —— 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 26年3月期2Q | 139,259,092株 | 25年3月期 | 139,259,092株 |
| ② 期末自己株式数 | 26年3月期2Q | 22,078株 | 25年3月期 | 20,114株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 26年3月期2Q | 139,237,885株 | 25年3月期2Q | —株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 1 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 1 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 3 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 3 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 3 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 3 |
| 3. 継続企業の前提に関する重要事象等 | 3 |
| 4. 四半期連結財務諸表 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (セグメント情報等) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府主導の経済政策などによる経済成長への期待感もあり、国内企業の収益改善のみならず、高付加価値商材や外食、娯楽などへの消費トレンドにおいても改善が見られつつあります。直近におきましては、不安定な国際情勢、国内においても消費税の増税が決定するなど、先行きへの不透明感は若干残るものの、全体としての景況感は緩やかながらも回復傾向に向かっているものと考えております。

このような状況の中、前連結会計年度末に子会社としたキーノート株式会社（以下、キーノート）および株式会社ブレイク（以下、ブレイク）との間でアドアーズグループを形成し、新たな経営陣のもと、各社のノウハウの融合、親会社であるJトラスト株式会社との連携を活かした成長戦略に着手しております。

主力のアミューズメント事業におきましては、売上の中核ジャンルであるメダルゲームの大幅な単価見直し施策の規模を拡大させるとともに、リアル・ネット・メディアを活用した積極的な販促活動等を行ったこともあり、既存店売上高前年比は第1四半期平均の95.3%から当第2四半期平均98.4%と3.1%改善するなど、上半期全体を通しても回復傾向にて推移致しました。また、景品販売においても好調な店舗運営状況に下支えられ、比較的堅調に推移致しました。

不動産事業におきましては、キーノートで展開する戸建住宅販売に関し、完成物件の引渡が下半期にずれ込む等により上半期の業績は伸び悩んだものの、Jトラストグループとのリソースを活かすべく、当連結会計年度より事業展開を図っている不動産アセット部門におきまして、販売用不動産ならびに都心部を中心とした収益物件の取扱いを開始するなど、今後の収益拡大に向けた一歩を着実に踏み出しております。また建築事業におきましては、アドアーズで営んできた商業施設向けの設計・施工事業をキーノートへ集約するなどのグループ内事業再編も実施し、シナジー創出・効率化による収益向上策にも着手致しました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高11,354百万円、営業利益795百万円、経常利益727百万円、四半期純利益723百万円となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

※前連結会計年度にて期中連結を行っているため、前年同期比較は行っておりません。

[アミューズメント事業]

当社グループの主力事業であるアミューズメント事業の中核を成すアミューズメント施設運営事業におきましては、国内景気の回復基調を背景に、これまで最重要課題と定めてきた「集客」に資する新規顧客層の獲得に継続して取り組みました。

特に当事業の売上の4割以上を担う中核のメダルゲームジャンルにおいては、ゲームの演出を存分に楽しみたいという遊戯ニーズに応える形で前期末から展開しているメダル貸出単価「1,000円＝500枚」施策の規模を拡大したほか、コアファン向けのイベント「メダルファンタジアカップ」、客足が鈍る梅雨時期にあわせた「アメ得キャンペーン」など、実績のある人気イベントの継続開催、さらには業界初となる自社株価連動式イベント「アドノミクス」等の高単価施策、独自性の高いイベントも開催した結果、当該ジャンルの在客数・売上高ともに前年を大きく上回ることができました。

なお、今年の8月で開設1周年を迎えたカラオケアドアーズ秋葉原店における様々な業種・コンテンツとのコラボ企画等による話題作りをはじめ、店舗・ネットを使った情報告知などの販促活動を積極的に展開したことも集客に大きく寄与致しました。

プライズジャンルにおきましてもブレイクとの連携による強化を進めたことにより、集客面では前年水準を確保した結果、ビデオゲームジャンルがスマートフォンやソーシャルゲーム等の影響を受けて大幅な減収で苦戦する中、平成25年8月度の既存店売上高が、実に1年11ヵ月ぶりに対前年超えを達成するなど、アミューズメント施設運営事業で長らく続いてきた下降トレンドが下げ止まりつつあります。

プライズ景品の製造・販売部門におきましては、夏休み直前までは伸び悩んだものの、推し進めてきた生産管理への艇入れによる準備が奏功し、7月以降はこの新管理体制が軌道に乗り、既存のキャラクター商材の取り扱いにおける選別眼のみならず、ブレイクの完全オリジナル景品の開発・販売も全体収益に寄与するに至っております。

以上の結果、アミューズメント事業の業績におきましては、売上高は8,779百万円、セグメント利益920百万円となりました。

ご参考：平成26年3月期9月度までの既存店売上高前年比

| | 4月 | 5月 | 6月 | 第1Q 平均 | 7月 | 8月 | 9月 | 第2Q 平均 | 上半期 平均 |
|---------------|-------|-------|-------|-----------|-------|--------|-------|-----------|-----------|
| 既存店売上 高前年比 | 92.0% | 96.0% | 97.9% | 95.3% | 96.3% | 103.1% | 95.3% | 98.4% | 96.9% |

当第2四半期連結累計期間における出退店につきましては、アドアーズ海老名店、アドアーズ三ツ境店、アドアーズDEN池袋店、アドアーズ川越店、アドアーズ川口店の5店舗に加え、ブレイクが運営するゲームゴールデン上野店を閉店しており、当第2四半期連結累計期間末時点における店舗数は62店舗となりました。

なお、当第2四半期決算短信発表時点におきましては、さらにアドアーズ蒲田西口店A館、ならびにゲームファンタジア東中野店を閉店しており、現時点での店舗数は60店舗となります。

また、平成25年7月3日付「(株)ゲオとのカプセル自販機に関する業務委託の解消ならびにカプセル自販機等の売却等に伴う特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、株式会社ゲオ運営店舗へのカプセル自販機設置運営事業につきましては、受託の解消に伴って発生した各種費用を差し引いた88百万円を特別利益として当第2四半期連結累計期間にて計上しております。また、事業整理・リソースの集中の観点から、他顧客への設置・運営受託も解消を進めております。

〔不動産事業〕

キーノートが展開する戸建住宅販売におきましては、消費税増税の決定等により、市場環境は概ね順調に推移致しました。一方、今期中の完成物件の引渡可能時期が下半期に集中していることから、上半期の業績への貢献は低水準にとどまりました。

また、アドアーズとして、新たに立ち上げたアセット事業におきましては、販売用不動産ならびに都心部を中心とした収益物件の仕入れなど、今後の収益の確立に向けた動きを開始しております。

この結果、不動産事業における売上高は2,041百万円、セグメント利益164百万円となりました。なお、今後展開するアセット事業の想定収益との乖離が大きい保有中の不動産の売却・整理を進めた結果、当第2四半期連結累計期間において40百万円の特別損失を計上しております。

〔建築事業〕

商業施設向け建築事業におきましては、同事業の子会社への集約に伴う体制変更・整備を進める中、新規を含むパチンコホールやカラオケ店、宿泊施設等の設計・施工を複数受注したものの、進行中であった大型案件の完工が下半期にずれ込んだこと等により、当事業における売上高は532百万円、セグメント利益7百万円となりました。

なお、平成25年5月28日付「当社グループの組織効率化に向けた事業再編に関するお知らせ」のとおり、これまでアドアーズとして展開してきた同事業を平成25年7月よりキーノートに集約しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて184百万円減の20,498百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金等が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて769百万円減の9,751百万円となりました。これは主として未払金、支払手形及び買掛金等が減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて584百万円増の10,746百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の増加による影響であります。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,118百万円の資金の獲得となりました。これは主として減価償却費の計上及び売上債権の減少による資金の増加によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、703百万円の資金の使用となりました。これは主として出資金の払込及び有形固定資産の取得等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、11百万円の資金の使用となりました。これは主として長期借入金の返済によるものであります。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は2,200百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間につきましては、新経営体制のもと、上向きつつある市況下において主力のアミューズメント事業を中心に、概ね計画通りの業績を確保致しました。

今後のアミューズメント事業におきましては、収益力が比較的高く、スマートフォンなどの影響も受けにくく、さらに当社独自の顧客網を有するメダルゲームを引き続き最注力ジャンルと位置づけ、ラインナップの充実と当社ならではのイベントやサービスを展開する中で、更なる強化を図ってまいります。また、ブレイクとの連携をより密なものとし、独自性の高いアミューズメント景品の開発・提供を通じて、新規顧客層の獲得を徹底的に推進、収益の安定的な拡大に努めてまいります。

人材の面におきましても、女性スタッフや若手スタッフの活性化ならびに積極登用など、流行に敏感な顧客目線に応えられるサービス提供を目指していく傍ら、ベテランスタッフにおきましても、これまでの経験やノウハウを今後の新規事業や独自のサービス作りに活かすことで、当社の独自性や将来への差別化、収益基盤の構築を目指してまいります。

不動産事業におきましては、アミューズメント事業と双璧をなす当社の中核事業とするべく、既存事業の収益向上はもとより、Jトラストグループが有する様々な経営資源・不動産情報を有効活用したアセット事業の拡大へ徹底注力してまいります。また、建築事業におきましては、キーンोटへ集約したことによる一層の業務効率化と、住・商幅広い顧客への対応力の強化を推し進めることで、新規案件の獲得ならびに既存顧客への継続営業等による収益の拡大を目指してまいります。

なお、当第2四半期連結累計期間の業績におきましては、平成25年5月13日付「平成25年3月期 決算短信」で公表致しました、通期の連結業績の収益目標に対し堅調に推移している状況であります。今後の業界市況や変貌する消費動向をはじめとした外部環境を慎重に見据えた結果、通期の連結業績予想を据え置くものと致します。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日) |
|------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,081,578 | 2,957,123 |
| 受取手形及び売掛金等 | 1,140,552 | 508,158 |
| 未成工事支出金 | 209,354 | — |
| 仕掛販売用不動産 | 345,201 | 643,302 |
| 販売用不動産 | 1,141,550 | 1,490,150 |
| 商品 | 187,993 | 164,708 |
| 貯蔵品 | 92,152 | 36,420 |
| 前払費用 | 517,952 | 509,891 |
| 未収入金 | 82,486 | 117,346 |
| 前渡金 | 37,371 | 121,313 |
| 繰延税金資産 | 93,417 | 90,499 |
| その他 | 194,316 | 110,572 |
| 貸倒引当金 | △1,950 | △824 |
| 流動資産合計 | 7,121,978 | 6,748,664 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| アミューズメント施設機器(純額) | 2,323,791 | 2,061,650 |
| 建物及び構築物(純額) | 1,986,050 | 1,887,736 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 106,661 | 91,269 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 1,137 | 813 |
| 土地 | 1,437,968 | 1,226,772 |
| リース資産(純額) | 61,601 | 50,586 |
| 建設仮勘定 | 24,672 | 27,760 |
| 有形固定資産合計 | 5,941,884 | 5,346,589 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 526,355 | 526,355 |
| のれん | 144,862 | 113,999 |
| ソフトウェア | 34,305 | 25,279 |
| その他 | 607 | 607 |
| 無形固定資産合計 | 706,131 | 666,242 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 33,786 | 35,447 |
| 出資金 | 9,403 | 987,913 |
| 長期前払費用 | 32,851 | 42,255 |
| 敷金及び保証金 | 6,308,484 | 6,124,399 |
| 破産更生債権等 | 116,070 | 113,335 |
| 繰延税金資産 | 437,614 | 435,955 |
| その他 | 180,134 | 200,134 |
| 貸倒引当金 | △205,232 | △202,326 |
| 投資その他の資産合計 | 6,913,112 | 7,737,113 |
| 固定資産合計 | 13,561,128 | 13,749,946 |
| 資産合計 | 20,683,106 | 20,498,611 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金等 | 953,637 | 319,967 |
| 短期借入金 | 662,000 | 1,281,206 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,147,418 | 1,093,567 |
| リース債務 | 10,460 | 10,460 |
| 未払金 | 1,734,818 | 1,391,248 |
| 未払費用 | 87,619 | 79,707 |
| 未払法人税等 | 84,030 | 53,321 |
| 未払消費税等 | 22,434 | 66,117 |
| 前受金 | 190,100 | 162,310 |
| 預り金 | 76,567 | 48,534 |
| 未成工事受入金 | 36,782 | — |
| 資産除去債務 | 60,228 | 15,617 |
| その他 | 6,955 | 60,228 |
| 流動負債合計 | 5,073,055 | 4,582,288 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 4,319,542 | 4,047,500 |
| 長期未払金 | 447,041 | 343,598 |
| 預り保証金 | 481,632 | 579,273 |
| リース債務 | 8,717 | 3,486 |
| 資産除去債務 | 191,086 | 195,516 |
| 固定負債合計 | 5,448,020 | 5,169,377 |
| 負債合計 | 10,521,075 | 9,751,665 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,405,000 | 4,405,000 |
| 資本剰余金 | 4,797,051 | 4,797,051 |
| 利益剰余金 | 959,414 | 1,543,535 |
| 自己株式 | △2,112 | △2,489 |
| 株主資本合計 | 10,159,352 | 10,743,097 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,677 | 3,848 |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,677 | 3,848 |
| 純資産合計 | 10,162,030 | 10,746,945 |
| 負債純資産合計 | 20,683,106 | 20,498,611 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) |
|-----------------|---|
| 売上高 | 11,354,307 |
| 売上原価 | 9,293,026 |
| 売上総利益 | 2,061,281 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,265,845 |
| 営業利益 | 795,435 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 929 |
| 受取配当金 | 752 |
| 広告協賛金 | 36,003 |
| その他 | 33,902 |
| 営業外収益合計 | 71,588 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 127,951 |
| その他 | 11,248 |
| 営業外費用合計 | 139,199 |
| 経常利益 | 727,824 |
| 特別利益 | |
| 固定資産売却益 | 24,131 |
| 違約金収入 | 88,538 |
| その他 | 9 |
| 特別利益合計 | 112,679 |
| 特別損失 | |
| 固定資産売却損 | 52,087 |
| 固定資産除却損 | 9,341 |
| 減損損失 | 28,439 |
| その他 | 1,683 |
| 特別損失合計 | 91,551 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 748,952 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 21,504 |
| 法人税等調整額 | 4,087 |
| 法人税等合計 | 25,592 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 723,360 |
| 少数株主利益 | — |
| 四半期純利益 | 723,360 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日) |
|-----------------|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 723,360 |
| その他の包括利益 | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,170 |
| その他の包括利益合計 | 1,170 |
| 四半期包括利益 | 724,530 |
| (内訳) | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 724,530 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
 (自 平成25年4月1日
 至 平成25年9月30日)

| | |
|----------------------|------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 748,952 |
| 減価償却費 | 843,919 |
| 減損損失 | 28,439 |
| のれん償却額 | 30,862 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △4,032 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,681 |
| 支払利息 | 127,951 |
| 固定資産売却損益 (△は益) | 27,955 |
| 固定資産除却損 | 9,341 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | 420,673 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △401,387 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △633,670 |
| 違約金収入 | △88,538 |
| その他 | △131,318 |
| 小計 | 977,466 |
| 違約金の受取による収入 | 181,495 |
| 法人税等の支払額 | △44,299 |
| その他 | 3,393 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,118,056 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 定期預金の増減額 (△は増加) | 527,550 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △818,806 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 240,049 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,820 |
| 出資金の払込による支出 | △1,400,510 |
| 出資金の払戻による収入 | 422,000 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △6,030 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 373,079 |
| その他 | △42,629 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △703,477 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の増減額 (△は減少) | 619,206 |
| 長期借入れによる収入 | 785,763 |
| 長期借入金の返済による支出 | △1,111,656 |
| 利息及び配当金の支払額 | △297,920 |
| その他 | △6,857 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △11,464 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △18 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 403,095 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,797,083 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 2,200,178 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3 |
|---------------------------|----------------|---------|-----------|------------|--------------|------------|--------------|----------------------------|
| | アミューズ メント事業 | 建築事業 | 不動産事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 8,779,795 | 532,024 | 2,041,019 | 11,352,838 | 1,468 | 11,354,307 | — | 11,354,307 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | — | 13,390 | — | 13,390 | — | 13,390 | △13,390 | — |
| 計 | 8,779,795 | 545,414 | 2,041,019 | 11,366,228 | 1,468 | 11,367,697 | △13,390 | 11,354,307 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 920,432 | 7,926 | 164,194 | 1,092,553 | △188 | 1,092,365 | △296,929 | 795,435 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△296,929千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アミューズメント事業」セグメントにおいて、閉店を決定した店舗の資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しております。

なお、減損損失計上額は、当第2四半期連結累計期間において28,439千円であります。